

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	人形劇
----	----	----	-----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃ にんぎょうげきだんくらるて		団体ウェブサイトURL	
	有限会社 人形劇団クラルテ		http://www.clarte-net.co.jp	
代表者職・氏名	取締役 奥洞昇			
制作団体所在地	〒	559-0015	最寄り駅(バス停)	住之江公園駅
	大阪府大阪市住之江区南加賀屋3-1-7			
電話番号				
ふりがな 公演団体名	にんぎょうげきだんくらるて		団体ウェブサイトURL	
	人形劇団クラルテ		制作団体に同じ	
代表者職・氏名	代表 鶴巻 靖子			
公演団体所在地	〒	制作団体に同じ	最寄り駅(バス停)	制作団体に同じ
	制作団体に同じ			
制作団体 設立年月	1964年7月			
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	取締役 奥洞昇		団体構成員:28名(制作班7名、事務班4名、公演班17名) 加入条件:劇団役員が面接で決める。	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く		本事業担当者名	松澤 美保
経理処理等の 監査担当の有無	有		経理担当者	室田 美幸
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	office@clarte-net.co.jp			

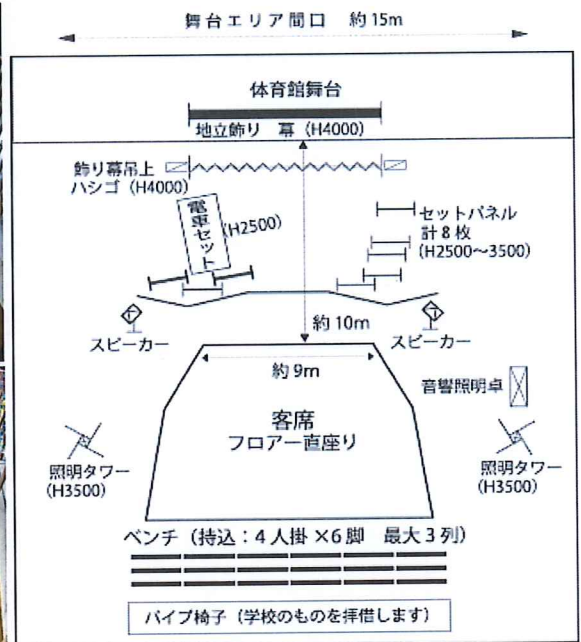
<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1948年人形劇団クラルテ創立 以降、全国で人形劇の上演・普及活動を行う ・1964年に法人格取得 ・1982年大阪市住之江区(現住所)にアトリエ竣工 ・2010年神戸事務所(兵庫県神戸市)設置 ・2016年一般社団法人人形劇団クラルテ設立 <p>主な受賞歴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1958年 『黄色いこうの鳥』 大阪府・市芸術祭奨励賞受賞 ・1979年 『だぶだぶ仲間森へ行く』 東京都児童演劇優秀賞受賞 ・1986年 『瓜子姫とあまんじゃく』 国際エスペラント人形劇フェスティバル特別審査員賞受賞 ・1990年 『散るは櫻の花のみか』 大阪文化祭賞受賞 ・2018年 劇団創立70周年記念公演『はてしない物語』 平成30年度大阪文化祭奨励賞及び大阪劇フェス2018作品賞・スタッフ賞(人形美術・舞台美術)受賞 ・2019年 『女殺油地獄』 令和元年度文化庁芸術祭演劇部門大賞受賞 ・2023年 『11ぴきのねこ』 令和5年度こども家庭庁こども家庭審議会推薦児童福祉文化財『女殺油地獄』大阪劇フェス2023作品賞受賞 		
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>1956年『三匹の子豚』公演以来、毎年小学校公演実績あり</p> <p>(直近)</p> <p>2016年度『あらしのよるに』35公演、『サーカスのライオン』14公演、他2公演</p> <p>2017年度『あらしのよるに』9公演、『いえでででんしゃ』17公演、他1公演</p> <p>2018年度『あらしのよるに』15公演、『いえでででんしゃ』12公演、 中高一貫校『ハムレット』1公演、他2公演</p> <p>2019年度『あらしのよるに』14公演、『いえでででんしゃ』4公演、 『トクントクンーいのちの旅ー』2公演、他1公演</p> <p>2020年度『あらしのよるに』3公演、『いえでででんしゃ』2公演、 『トクントクンーいのちの旅ー』16公演</p> <p>2021年度『あらしのよるに』3公演、『トクントクンーいのちの旅ー』4公演、他2公演</p> <p>2022年度『あらしのよるに』18公演、『トクントクンーいのちの旅ー』2公演、他1公演</p> <p>2023年度『あらしのよるに』10公演、『トクントクンーいのちの旅ー』2公演、 『銀河鉄道の夜』1公演、他1公演</p>		
<p>特別支援学校等における 公演実績</p>	<p>2014年度5校(うち3校は本事業にて『あらしのよるに』山口県立山口総合支援学校、 広島県立庄原特別支援学校、鳥取県立米子養護学校) 『サーカスのライオン』大阪府立西淀川特別支援学校、奈良県立大淀町養護学校</p> <p>2015年度1校(本事業にて『あらしのよるに』宮崎県立児湯るびなす支援学校)</p> <p>2016年度1校 京都府立丹波支援学校亀岡分校『三びきのこぶた』他</p> <p>2017年度3校(うち1校は本事業にて『あらしのよるに』兵庫県立赤穂特別支援学校) 吹田市特別支援学校『あらしのよるに』、丹波篠山市立篠山養護学校『三びきのこぶた』他</p> <p>2018年度3校(うち1校は本事業にて『あらしのよるに』福岡県立太宰府特別支援学校) 篠山養護学校『ゆらゆらばしのうえて』他、大阪府立中津支援学校『うさぎのおうち』他</p> <p>2019年度1校 篠山養護学校『赤いめんどり』他</p> <p>2020年度なし</p> <p>2021年度1校(本事業にて『あらしのよるに』佐賀県立中原支援学校)</p> <p>2022年度1校 大阪府立堺支援学校大手前分校『さるどんかにどん』</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>無</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	
<p>PW:</p>			

別添	あり			
公演・ワークショップの内容		【公演団体名	人形劇団クラルテ	
対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	
企画名	人形劇『いえでででんしゃ』～言葉にならなかった気持ちを伝える力に変えて～			
企画のねらい	鑑賞やワークショップ・共演を通して、人形劇の世界に触れ、物語の登場人物の気持ちを想像する体験をすることで、作品や人形劇そのものへの理解を深め、より主体的に舞台芸術と関わることで、想像する力を育み、自らが表現する事、皆と心を合わせ一つの舞台を作り上げることなど、多くの学びを受け取ってもらえる機会となることを目的としています。作品のテーマでもある”自己発見”や”相互理解”をワークショップの内容にも関連させ、本企画を通じた教育効果として、問題に立ち向かう力やコミュニケーション力を育むことに繋がります。			
演目概要・演目選択理由	<p>《演目概要》</p> <p>”いえでででんしゃ”は子ども達の葛藤する思いを乗せて走ります――。</p> <p>家出した子どもだけを乗せて走る”いえでででんしゃ”は空を飛び、深海まで潜り、乗客は人間だけでなく、鳥や深海魚の子どもまで乗り合わせます。ここでは皆、人間と同じように話すことができます。はじめは大人に怒っているものの、語り合い、共感し、協力し合ううちに、自分たちが本当に欲していたものに気づきます。誰にどう認めて欲しかったのか、理解して欲しかったのか等、そして自分の場所でそれを獲得するために家に帰っていきます。</p> <p>広い世界を描き、魅力的なキャラクターたちが登場し、家出してから帰るまでの心の流れを綴ります。</p> <p>《演目選択理由》</p> <p>親に言いたいことが言えなかったり、自分の気持ちが相手に伝わらず、悔しい、悲しい思いをしたことがない子どもはいないでしょう。そんな子ども達の葛藤する思いを乗せて”いえでででんしゃ”は走ります。自分を見つけ、自分以外のものを受けとめる体験をする小学3年。自我が伸びる時と、その時を通過した子ども達に、本作品を通し、自分の意思を相手に伝えること、相手と分かち合うことの大切さと喜びに共感し、一歩を踏み出す勇気や新たな問題に立ち向かう力を育てていきたいと思えます。また、物語の展開の面白さやユニークな登場人物達から想像力を膨らませ、心を解放した楽しい時間にしてもらいます。人間関係が希薄になっている今の時代に、心が通う感動を子ども達の心に届けます。子ども達の身近なテーマを描いているため、自身と結び付けて感じ、考えていただける作品です。</p> <p>本作品は平成23年度トップレベルの舞台芸術創造事業助成金の助成を受け制作・上演し、その後、小学校公演作品として改変し、全国の小学校で上演実績があり好評をいただいていることも本事業への演目の選択理由です。</p>			
児童・生徒の参加又は体験の形態	<p>児童との共演では「生き物チーム」と「電車チーム」に分かれ、個々で表現したい児童は「生き物チーム」、集団で表現したい児童は「電車チーム」として、劇団員と一緒に1場面を作り共演します。劇の冒頭、舞台前に「生き物チーム」の児童(約10名)が事前ワークで各々のアイデアで創作した生き物の人形を操作しながら登場します。それらは”いえで”をした子どもの生き物たちで、各々がその生き物の積りを人形の声や動きで表現します。そこへ「電車チーム」の児童(約20名)が列になって身体で創る”いえでででんしゃ”が登場します。電車をイメージした身体の動きや擬音等は事前ワークで児童のアイデアにより創作します。電車は舞台前までやって来て停車、待っていた生き物を乗せて出発。そのまま出演児童の列(いえでででんしゃ)が客席に着き、着座したところで人形劇の本編が始まります。</p> <p>ワークショップでは劇に出演しない児童も一緒に皆で身体表現での電車を創作し、人形を1人1体製作します。</p> <p>本番終演後に、主にワークショップに参加した児童たちとの交流(人形や舞台小道具、照明や音響効果などの説明、集合写真など)も実施しています。(5～10分程度)</p>			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	30名程度(共演する児童の人数)	
		鑑賞人数目安	400名まで	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>『いえでででんしゃ』 原作/あさのあつこ(新日本出版社刊) 脚色/松本則子 演出/宮本敦 人形美術/永島梨枝子 舞台美術/西島加寿子 音楽/茨木新平 照明/永山康英</p> <p style="text-align: right;">公演時間 65 分</p>			
出演者	松原康弘、宮本敦、白國亜衣、徳永颯希、松村瑞姫、鎌田炉路 計6名			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<p>【メインスタッフ】松本則子・・・『いえでででんしゃ』脚色。人形劇団クラルテ劇団員。1966年入団、人形劇俳優を経て、現在は劇団内外の脚色・演出、演劇祭コーディネーター等を担当。主な脚色作品『ウーヌーグーヌーが来た!』『おーいペンギンさん』ほか。1998年岸和田市文化功労賞、2009年「O夫人児童青少年演劇賞」受賞。</p> <p>【メインキャスト】宮本敦・・・『いえでででんしゃ』演出・出演(車掌役)。人形劇団クラルテ劇団員。2001年入団、同年初舞台。人形劇俳優、脚色・演出を担当。主な出演作品『はてしない物語』『ハムレット』『あらしのよるに』ほか。</p> <p>松村瑞姫・・・『いえでででんしゃ』出演(主役さくら子役)。人形劇団クラルテ劇団員。2020年入団、同年初舞台。人形劇俳優。主な出演作品『パンドロぼう』『お気に召すまま』『あらしのよるに』ほか。ワークショップ講師としても活躍。</p>			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	<p>出演者: 6 名</p> <p>スタッフ: 2 名</p> <p>合計: 8 名</p>	運搬	<p>積載量: 2 t</p> <p>車長: 6 m</p> <p>台数: 2 台※1台はワゴン車</p>	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	有	前日仕込み所要時間		2.5	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時30分	仕込み8時30分～11時 (児童出演部分のリハーサル 11時15分～12時)	13時30分～ 14時40分	0分	15時～ 16時30分	16時40分

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期について は、採択決定後に確認し ます。(大幅な変更は認め られません)	6月	7月	8月	9月
	8日	0日	0日	5日
	10月	11月	12月	1月
	10日	10日	8日	4日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計



舞台・客席平面図(椅子席は人数により増減)

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

- (写真・上) 体育館フロアに舞台を設置した状態
(写真・下) 客席に児童が座った状態(暗幕は閉めます。換気のため窓のみ開けることも可能)
- ・体育館ステージ上も使用します。※ステージが無い場合、長机4脚で対応可能。
 - ・舞台設置に必要な面積 横15m 奥行きm 高さm(ステージ上の高さ4m)
 - ・電源容量(主幹ブレーカー容量) 60A以上 単層三線 ※体育館の分電盤を使用します。

(舞台写真)




著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要 否	該当あり	該当コンテンツ名	原作『いえででんしゃ』
	該当事項がある 場合	権利者名 原作：あさのあつこ	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 人形劇団クラルテ】

ワークショップのねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・創作・創造過程において、自己発見・自己表現や他者理解の活動をベースに、コミュニケーション力を伸ばし、劇の楽しさを感じてもらう。 ・集中力、協調性を養い、全員で一つのものを作り上げる演劇の醍醐味を味わってもらう。 ・自分で工夫して作った人形は愛着を持ち感情移入しやすく、劇体験が取り組みやすくなる。 ・人形を遣うことで、自己を解放しやすく、また、客観的に物事を考え意見を言いやすい状態となり、表現することや劇世界の楽しさをより感じるができる。 ・人の気持ちを想像することで、人に対する思いやりの心を育む。 		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	60名程度まで (学校規模により人数増対応)
ワークショップ実施形態及び内容	<p>90分(2時限・途中で休憩時間をはさみます)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体と心をほぐす(ウォーミングアップ)…自分の身体や相手を意識しながら想像力を広げるゲーム等を通して、身体と心を解放させます。 2. 「いえでででんしゃ」を創作…リズム遊びとリズムに合わせての身体遊びから、皆で動きとオノマトペを考え、身体を使って“でんしゃ”を表現し、走らせます。本番での電車チームの表現に繋がります。 <p>(途中休憩5分)</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 人形を創作し遣う(導入)…紙袋や色画用紙等を利用して各々のアイデアによる生き物の人形を1人1体ずつ創作し、また自作の人形を遣う体験をする事で、人形劇表現の面白さに触れます。 ※紙袋は劇団で準備します。(学校では色画用紙、筆記用具等をご準備いただきます。) 4. 作品テーマに触れる(展開)…自分の創作した生き物が「もしも“いえで”をするなら…？」の問いかけから作品世界への想像を広げます。創作した生き物の“いえで”をする理由やその時の気持ちを想像し、人形を遣い発表し合う事から、本番の“生き物”の人形の表現に繋がります。本番で実際に遣う人形も見ていただきながら作品の説明をすることで、本番に対する期待も高めさせていただきます。 5. 振り返り…児童から質問や感想を聞いていきます。 <p>※この他に、本公演当日の本番前の時間で共演する児童とのリハーサル(45分)を行います。出演しない児童も、客席からの見え方や動きやセリフなどへのアドバイスをする役割として一緒に参加していただきます。</p> <p>本番終演後に、児童たちとの交流タイム(人形・舞台・小道具・照明・音響効果などの説明や集合写真など)も実施可能です。(5～10分程度)</p> <p>《児童製作の人形・例》</p> 		
その他ワークショップに関する特記事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップは基本的には体育館で実施します。時期や人数によっては、広い多目的室などでも対応させていただく場合もございます。(会場サイズ要相談) 		

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名 人形劇団クラレテ 】

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

①本事業に対する取り組み姿勢

文化・芸術は基より、自然や遊びという日常の中での実体験がますます少なくなっている子ども時代に、本物の舞台芸術に出会わせたいと強く願う。日常生活が豊かな自然や人間関係の中で育まれている子ども達に向けて公演した時には同じ作品が驚くほど輝きを増す体験を何度もしてきた。何もしなければ、これからの日本の未来を担う子ども達は日常体験も芸術体験も乏しく、想像力・創造力・共感力を育むことなく大人になる事への危機感を持っている。

本事業は、鑑賞するだけではなく、事前に人形劇の世界に触れ、物語の登場人物の気持ちを想像する体験をすることで、作品や人形劇そのものへの理解を深め、より主体的に舞台芸術と関わることで、想像する力を育み、自らが表現する事、まわりと心を合わせ一つの舞台を作り上げることなど、多くの学びを受け取ってもらえる機会となることを願って取り組んでいます。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

・ワークショップ時には、本番で実際に遣う人形を見せながら作品の説明をし、児童達が作った人形(生き物)の場合はどうするかという問いかけから作品世界への想像を広げます。

・児童達には目の前で生身の劇団員達が汗を流して演じていることや、舞台も人形もすべて人の手によって作られていることを知り、感じる、リアルな体験となってほしいので、交流の時間もできる限り持つようにしています。

・終演後の全校児童退場時には、役者が人形を持ってすぐ目の前で見送りをします。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

【学校との連絡調整について】

・事前にお電話やメールにてご担当先生へご連絡を入れ、コミュニケーションを図ります。上演に向けての詳細やワークショップの概要などはメールでお送りいたします。

【ワークショップ及び共演について】

・児童が製作する人形は、学校側の負担にならないよう、主な材料である紙袋は劇団側で準備をします。身近な材料を使い、簡単に作ることができ、個々で創意工夫を楽しめるものにします。ワークショップ時に完成しなくても、本番までの間に続きを作ったり、装飾してもらおうように促すことで人形により愛着がわき、本番までのモチベーションを高めることができます。

・舞台エリアの関係上、本番の出演人数には限りがあるため、学校によってはワークショップ参加者の一部のみの出演となる場合があります。出演しない児童も本公演当日のリハーサルでは、客席からの見え方や、動きやセリフなどへのアドバイスをする役割として一緒に参加していただけます。ワークショップ時に共演部分に繋がる内容を皆で体験することで、本番に向けて全員で劇を作っているという意識を持ち、人形劇全体への興味・理解も深まります。

・児童の出演は公演の冒頭部分なので、出演後は客席で落ち着いて鑑賞に集中していただけます。劇に関わったことで、より主体的に鑑賞していただいています。

・打合せ時に各学校の意見や要望を聞き、ワークショップの基本プランを元に、柔軟により発展させられるよう、各校ごとに対応させていただきたいと思います。

【その他】

・鑑賞、ワークショップ等において特に配慮が必要な児童がいる場合は、学校ごと柔軟に対応させていただきます。

・特別支援学校でのワークショップは、事前に先生と相談し、必要な場合は学校ごとに特別メニューで対応させていただきます。本番前に登場する人形を間近で見て、触れもらい、作品の世界により入り易くする。ワークショップの内容や進行について児童が見通しを持てるように流れを紙に書くなどをして分かりやすく説明するといった対応などをさせていただきます。鑑賞方法についてもできる限りご要望に対応いたします。

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名	人形劇団クラルテ 】
<p>演目概要</p>	<p>《あらすじ》 「花びんを割ったのは私じゃない！」無実の罪で母親に叱られたさくら子は家出をします。駅で電車を待っていると不思議な電車が目の前に現れます。それは家出をした子しか乗れない不思議な電車“いえでででんしゃ”です。中にはへんな車掌さん。さくら子が乗ると後から隣のクラスのけいすけくんが飛び乗ってきました。“いえでででんしゃ”は空を飛び、海に潜り、どんどん進んでいきます。途中、鷹の仲間のチョウゲンボウや深海魚のリュウグウノツカイの子どもが電車に乗ってきました。ふたりとも、親に兄弟と比較されたり、自分の気持ちを分かってもらえず家出をしてきたと言うのです。車掌さんは、「みんなが行きたいところへ連れて行ってあげる」と言うけれど、みんなが本当に行きたい所ってどこ？疑問を持った瞬間、“いえでででんしゃ”はスピードダウン。子どもたちがそれぞれの思いから家に帰ることを決めた時、今度はみんなの家に向かって“いえでででんしゃ”は走り出します。</p>		